

総合型選抜（9月募集/11月募集）

基礎学力評価型

基礎力テストのサンプル問題「国語」

【サンプル問題について】

掲載しているサンプル問題は、総合型選抜（9月募集／11月募集）【基礎学力評価型】の「基礎力テスト（国語）」のサンプル問題です。「基礎力テスト」では1教科当たり試験時間30分（2教科の場合は60分、3教科の場合は90分）、大問2題の出題を予定しており、今回のサンプル問題は大問2題分作成しましたが、本番の設問数の3分の2程度となっています。

【出題範囲】

「現代の国語」「言語文化」

ただし「言語文化」のうち、古文及び漢文についての出題はありません。

【作成の趣旨及び留意点】

このサンプル問題は、「基礎力テスト（国語）」について、具体的なイメージを持っていただき、受験に向けて準備ができるように作成・公表しております。

あくまでもサンプル問題として公表しており、試験の際に全く同様の形式での問題が出題されるものではありません。

1 次の文章を読み、後の問一〜五に答えなさい。

日本語の主語について考えてみよう。

月本氏は、『日本人の脳に主語はいらない』の中で、日本語の主語をめぐる問題について、次のように述べている。

みなさんは、中学校で英語を習いはじめたときに、仮主語 *It* を奇妙に思わなかっただろうか。「雨が降る」は英語では *It rains.* となる。(ア)、*It* が主語なのだろうか。また、日本語で「愛しているよ」は、英語では *I love you.* である。*I* と *you* が必要なのである。日本語では「私はあなたを愛している」とはふつう言わない。もちろん、こう言っても意味は通じるが、こういう表現は不自然である。

日本語は主語が省略されると、よく言われる。省略されるのは主語だけではない。「私」「あなた」「彼」「彼女」等の人称代名詞も省略されることが多い。日本語では主語がよく省略されるので、「日本語に主語はない」という主張をする言語学者がいる。この主語不要派と「日本語に主語はある」という主語擁護派の間の論争が、この数十年のあいだ言語学で続いているが、現在まで解決がつかっていない。

(イ)、川端康成氏の有名な小説『雪国』は、「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」で始まっている。この文の主語は何か。この文からだけでは、想像できないと思われる。ていばんとも言える英訳では、主語は *the train* 「列車」となっている。これは、物語の中で登場人物の島村、娘を含む乗客たちが列車に乗って雪国へと入って行くからである。(ウ)、^(c)「島村たちの乗った列車が長い(国境の)トンネルから出てきた」のである。翻訳者は、場面設定を^(c)こうりよして、主語を「列車」としたのだろう。論理的には、まっとうな主語の選定であると思われる。この例は、話の流れや場面設定から、省略された主語を読み取ることができるとしている。しかし、作者の川端氏自身、問題の文の主語が列車だと認識した上で^(d)こいにそれを省略したのか、主語など意識せず^(e)冒頭の文を書いたのか、私にはわからない。

ところで、主語の機能とは何であろうか。これについて、月本氏は、前出の『日本人の脳に主語はいらない』の中で、次のように述べている。

主語には、以下の三つの機能がある。

- ・ 主題を示す。
- ・ 主格を示す。
- ・ 動作主を示す。

(エ)、最初の「主題」について。日本語ではこれを「は」で表現することが多い。たとえば、

「象は鼻が長い」

この文の「象」が主題である。「長い」のは象ではなく鼻であるのだが、「象は」で象に焦点

をあてて、主題にしている。別の表現に言い換えるならば「象に関しては、鼻が長い」である。また、枕草子で有名な、

「春はあけぼの」

この「春」も主題である。春はあけぼのではない。この文を詳しく言い換えれば「春はあけぼのが良い」となる。こうすれば、この文は「象は鼻が長い」と同じになる。「春はあけぼの」は古典に出てくる表現で、現代の日本語にはないと思われる読者もいよう。しかし、^A「これと同様の表現はいまでも頻繁に使用されている。(オ)」「ビールはキリン」とか「温泉は箱根」とかである。

では次の「主格」について。「私が水を飲む」だと、「私が」が主格で「水を」が対格である。

「が」が主格を表し、「を」が対格を表す。英語では名詞の格がないので、その代わりに語順に頼っている。動詞の前が主語、動詞の後が目的語というようである。日本語では、語順は重要ではない。「私が水を飲む」でも「水を私が飲む」でもよい。

最後の「動作主」は、「私が戸をあけた」の「私」である。これはとくに詳しい説明は必要ないだろう。

(月本洋『日本人の脳に主語はいらない』講談社、二〇〇八年、一四四～一四五頁、一部変更)

問一 文章中の傍線部(a)～(e)の読み方あるいは漢字として正しいものをそれぞれ、①～④の中から

一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は、

1

～

5

。

- | | | | | | |
|------------------------------------------------------------------------------|---|----------|-------|-------|-------|
| <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td>1</td></tr></table> | 1 | (a) ①ようこ | ②かこ | ③ごよう | ④ようよう |
| 1 | | | | | |
| <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td>2</td></tr></table> | 2 | (b) ①底版 | ②呈板 | ③掟判 | ④定番 |
| 2 | | | | | |
| <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td>3</td></tr></table> | 3 | (c) ①思慮 | ②考慮 | ③配慮 | ④考察 |
| 3 | | | | | |
| <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td>4</td></tr></table> | 4 | (d) ①估意 | ②胡意 | ③估意 | ④故意 |
| 4 | | | | | |
| <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td>5</td></tr></table> | 5 | (e) ①ぼうず | ②ぼうそう | ③ぼうとう | ④とうしよ |
| 5 | | | | | |

問二 文章中の(ア)～(オ)に補うべき言葉の組み合わせとして最も適切なものを、1～4の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は、

6

。

- | | | | | | |
|---|-------|--------|-------|--------|--------|
| 1 | ア なぜ | イ さて | ウ つまり | エ ます | オ たとえは |
| 2 | ア さて | イ はたして | ウ しかし | エ または | オ ます |
| 3 | ア または | イ しかし | ウ なぜ | エ たとえは | オ はたして |
| 4 | ア しかし | イ たとえは | ウ ます | エ こいで | オ つまり |

問三 傍線部A「これと同様の表現」とあるが、その説明として最も適切なものを、1～4の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は、7。

- 1 「象は鼻が長い」と言い換えられる表現
- 2 主題を示して「くが良い」を表す表現
- 3 現代の日本語にはない古典に出てくる表現
- 4 春とあけぼのとを「良さ」で繋げる表現

次の文章を読み、後の問一〜四に答えなさい。

二つ目の展開

飯田（琴ちゃん）のクラスは、担任の真梨江先生の発案で「三十人三十一脚」の予選に出場することになった。三十人の小学生が足を結んで一列に並び、五十メートル走のタイムを競うのである。飯田はクラスいち足が遅かったため、クラスいち足の速い奥山くんが横につくことになった。だれに対しても親切な奥山くんは、飯田が転んでも、いつも「ごめんね」と助けおこしてくれた。一度は真梨江先生に辞退を申し入れた飯田だったが、言下に一蹴され、予選が終わることだけを日々祈るのだった。いよいよ本番。スタートは上々。しかし、いつもより速いペースに、飯田の足は残り半分の地点で止まる――。

右足のひざから力がぬけた。

がくんと世界が傾いた。

左足の紐が外れ、体ごと地面にくずれおちた。

奥山くんと私の足が離れた――。

切れぎれな記憶の連なりのなかで、皮肉にも、最も忘れたいその場面だけがスローモーションの緻密さで目の裏に焼きついている。

一列のラインは無惨に寸断された。なにが起こったのかというように、二、三歩先で奥山くんがふりかえる。それに連動してその横の男子、そのまた横の女子と、つんのめりの波が左へ左へ伝っていく。

グラウンドに転がる私を見ずえる奥山くんの顔には表情がなかった。いつもの優しいまなざしも、「ごめんね」とさしだされる手もない。彼はただ影のようにのっぺりと立ちつくしていた。なにも言わない。動かない。その不動に、その沈黙に責められている気がして、私はますます動転した。

消えたい。この世界からいなくなってしまいたい。

しかし、それは許されなかった。バッテリーが切れたような奥山くんに代わって、業を煮やしたみんなが騒ぎだしたのだ。

「琴ちゃん、立とう」

「起きろよ、飯田」

「最後までがんばろう」

「フアイト！」

もはや勝ち目はない。決勝進出の望みは断られた。テレビ出演も水の泡。それでも、せめてゴールをしようというみんなの声を無視できるわけもなく、私はごま粒ほどの余力をふりしぼり、地中深くへ埋めこまれたような下半身を起こした。

みんなの声にはじかれるように、奥山くんもはたと動きを再開し、ぎくしゃくした手つきで私たちの足に紐をまわした。

もう一度、合体。再び組みあわせた腕は、しかし、どこかよそよそしい。

「最後までフアイト！レッツゴー二組！」

博多くんの涙声を合図に、整列しなおした横一文字で、三十一脚がまた走りだす。

半分やけくその「いち、に、いち、に」。

スタンドからの哀れみの拍手。

ゴール地点で待つ真梨江先生の悲壮な声援。

不幸中の幸いは、ゴール後、ひざから血を流していた私を保健係が救護室へ連れていってくれたことだ。

抱きあつて泣く子。地べたにうずくまる子。無言で肩を上下させる子。いたたまれないその場から立ち去ることはできても、しかし、決勝進出の夢を絶たれたみんなの盛大な嘆きは、救護室で消毒を受けているあいだも私を苛みつづけた。どんな顔をすればいいのか。どう償えばいいのか。いつそ転校してしまいたい。ところが――。

約二十分後、ひざごぞうにガーゼを貼りつけた私がスタンドの一角へもどったときには、なぜだか空気が一変していた。

いったいなにが起こったのか？

さつきまでの慟哭が嘘のように、六年二組の面々はけろりといつもみんなにもどっていたのだ。もはやそこに湿気はなく、むしろ「楽しかった」「やるだけやった」「いい思い出ができた」などと、こぞつてポジティブなことを言いあっている。私の失態はなかったことになっているのか、だれもそこには触れようとしない。まるであの転倒場面だけがみんなの記憶からポイント消去されたかのように。

(森 絵都『出会いなおし』「むすびめ」文藝春秋、二〇一七年、一三〇～一三二頁)

問一 傍線部A「業を煮やす」の意味として最も適切なものを、1～4の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は、10.。

- 1 怒りを抑えることのできる範囲を超えている。
- 2 勇気を奮い起こして、意気込む。
- 3 思うように事が運ばず、いらだつ。
- 4 その場にいることにたえない。

問二 傍線部B「地中深くへ埋めこまれたような下半身」とあるが、この表現が表している飯田の心情として最も適切なものを、1～4の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は、11.。

- 1 自分の転倒によって決勝進出がなくなってしまったことを、二組のみんなに深く詫びたいという心情
- 2 奥山さんと同じようにバッテリーが切れてしまって、もう一步も動くことができないという心情
- 3 みんなの「がんばろう」という呼びかけによる重圧で、押しつぶされそうだという心情
- 4 もうこれ以上足を動かすことはできない、この場からいなくなってしまうという心情

【解答】

<大問1>

		解答
問1	解答番号1	①ようご
	解答番号2	④定番
	解答番号3	②考慮
	解答番号4	④故意
	解答番号5	③ぼうとう
問2	解答番号6	1
問3	解答番号7	2

<大問2>

		解答
問1	解答番号10	3
問2	解答番号11	4